

「学校外教育費用に関する実態調査」 および  
 「推薦入学にかかる教育費負担に関する実態調査」  
 (平成15年度)  
 ~ アンケート結果の概要 ~

<お問い合わせ先>  
 東京都千代田区大手町1-9-3  
 国民生活金融公庫総合研究所  
 電話 03-3270-1361 内線537  
 情報開発課 土橋  
 (夜間直通 03-3270-1384)

学校外教育費用に関する実態調査

学習塾・習いごとなどの受講割合は2割  
 ~ 高校生は年間24万円、大学生は同19万円の費用負担 ~

調査時期	平成15年6月
調査対象	「国の教育ローン」を平成15年2月に利用した世帯
有効回答数	3,563件(有効回答率29.7%)
(回収数)	3,707件 回収率30.9%

~ 主な調査結果 ~

1 学校外教育の受講割合は全体で21.6%。高校生は45.4%(本文2、3、4ページ)

学校外教育を受講している割合は、全体で21.6%となった。0.3%とわずかではあるが、3年ぶりに前年度調査を上回った。高校生は45.4%と、半数近くが受講している。

学校外教育を受講していない理由は、「必要性を感じない」が30.3%、「子供が希望していない」が27.8%となった。一方、「費用の負担が重い」が27.5%となっている。

2 高校生では受験対策が44.6%。大学生では実学志向が強い(本文5、6ページ)

学校外教育の内容をみると、高校生では「学習塾、進学塾、予備校など」が44.6%と最も多い。

大学生では「英会話学校、語学学校など」(19.4%)、「検定受検を目的とした学校(簿記や秘書など)」(7.0%)と回答した割合が相対的に高く、実学志向が強いことがうかがえる。短大生では「文化教養関連の習いごと(絵画やピアノなど)」が73.3%と高くなっている。

学校外教育の1カ月当たりの受講回数は、高校生で5回以上が47.1%となった。また、1カ月当たりの受講時間は、高校生で10時間以上が43.1%となった。

3 受講費用は、高校生で年間24万円、大学生で同19万円(本文8、9ページ)

学校外教育にかかる年間費用は、高校生が23.5万円。大学生が18.6万円となった。

「学習塾、進学塾、予備校など」が28.4万円、「家庭教師」が23.4万円となり、費用の負担は重い。「学習塾、進学塾、予備校など」では、「40万円以上」と回答した割合が27.2%となっている。

## 推薦入学にかかる教育費負担に関する実態調査

### 私立短大、私立大学の初年度費用は200万円を超える ～ 推薦入学の形態は多様化～

調査時期	平成15年6月
調査対象	「国の教育ローン」を平成15年2月に利用した世帯
回収数	3,707件(回収率30.9%)
分析対象数	514件(短大または大学に推薦で子供が入学した世帯)

#### ～ 主な調査結果～

- 1 推薦入学試験の形態は、「指定校推薦」が4割となる一方、「自己推薦」、「アドミッションオフィス(AO)入試」など多様化がみられる(本文2ページ)

推薦入学試験の形態は、「指定校推薦」が40.5%、「自己推薦」が29.9%、「付属校・系列校などからの推薦」が10.4%、「アドミッションオフィス(AO)入試」が9.4%、「スポーツ分野での推薦」が5.6%となった。

私立短大では、「指定校推薦」が46.9%と半数近くを占めている。

- 2 入学費用は一般入試受験者より2割強少ない(3、4ページ)

私立大学の入学費用は、全体では73.7万円となった。入学試験の形態別にみると、「自己推薦」が84.2万円ともっとも高い。一方、「指定校推薦」は67.3万円、「AO入試」は65.9万円と少なく、入学試験の形態によって差がみられる。

入学費用の合計は、私立短大が61.4万円、私立大学では理系が74.8万円、文系が69.6万円となっており、一般入試受験者の入学費用と比べると、2割強少なくなっている。

- 3 初年度費用は、私立短大では202万円、私立大学では理系が234万円、同文系が203万円(本文5ページ)

在学費用の年間見込額は、私立短大が140.7万円、私立大学では理系が159.2万円、文系が133.4万円となっている。

入学費用と在学費用を合算した初年度費用は、私立短大が202.1万円、私立大学では理系が234万円、文系が203万円となっている。

平成16年1月14日

# 学校外教育費用と推薦入学にかかる教育費負担に関する実態調査

学校外教育費用に関する実態調査結果

推薦入学にかかる教育費負担に関する実態調査結果

国民生活金融公庫総合研究所

# 学校外教育費用に関する実態調査結果

## 調査要領、回答世帯の概要

### 調査結果

- 1 学校外教育の受講状況
  - (1) 学校外教育の受講状況
  - (2) 学校外教育を受講している割合の推移
  - (3) 学校外教育を受講していない理由
- 2 学校外教育の受講の実態
  - (1) 受講内容
  - (2) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(在学先別)
  - (3) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(受講内容別)
- 3 受講費用の実態
  - (1) 受講費用
  - (2) 受講費用の負担者

## 調査要領、回答世帯の概要

### 1 調査要領

調査対象：「国の教育ローン」を平成15年2月に利用した世帯
実施時期：平成15年6月
発送件数：11,999件
有効回答数：3,563件（有効回答率29.7%）
（回収数：3,707件 回収率30.9%）

#### 「国の教育ローン」の概要

利用対象  
世帯の年収が990万円（事業所得者は770万円）以内（注）で、下記の学校に入学・在学する子どものいる世帯。

- ・高校、高等専門学校
  - ・短大、大学、大学院
  - ・専修・各種学校、予備校など
  - ・海外の学校（高校、短大、大学など）
  - ・その他の教育施設（職業能力開発校など）
- （注）平成14年4月から所得上限額は1,210万円から990万円（事業所得者は990万円から770万円）へ引き下げられた。

#### 融資額

学生・生徒1人当たり200万円以内

#### 用途

- ・入学費用（学校納付金、受験費用など）
- ・在学費用（授業料、アパートの家賃、通学費など）

### 2 集計対象にした子どもの在学先(単位:%)

高校	専修・ 各種学校	短大	大学	その他
19.4	23.9	7.1	46.7	2.9

（注）「その他」とは、大学院、海外の学校、予備校、その他の学校である。

### (参考)回答世帯の概要

#### (1)主たる家計維持者の職業(単位:%、以下同じ)

勤務者	個人事業主	法人経営者	その他
77.6	13.4	5.4	3.6

#### (2)主たる家計維持者の年齢

44歳以下	45～49歳	50～54歳	55歳以上	平均
14.8	36.2	35.2	13.8	49.4歳

#### (3)世帯の年収(平成14年)

200万円 未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円 以上	平均
2.4	12.0	23.4	30.9	31.3	654.5万円

（注）調査対象世帯が「国の教育ローン」を利用した時点の所得上限額は990万円(事業所得者は770万円)である。

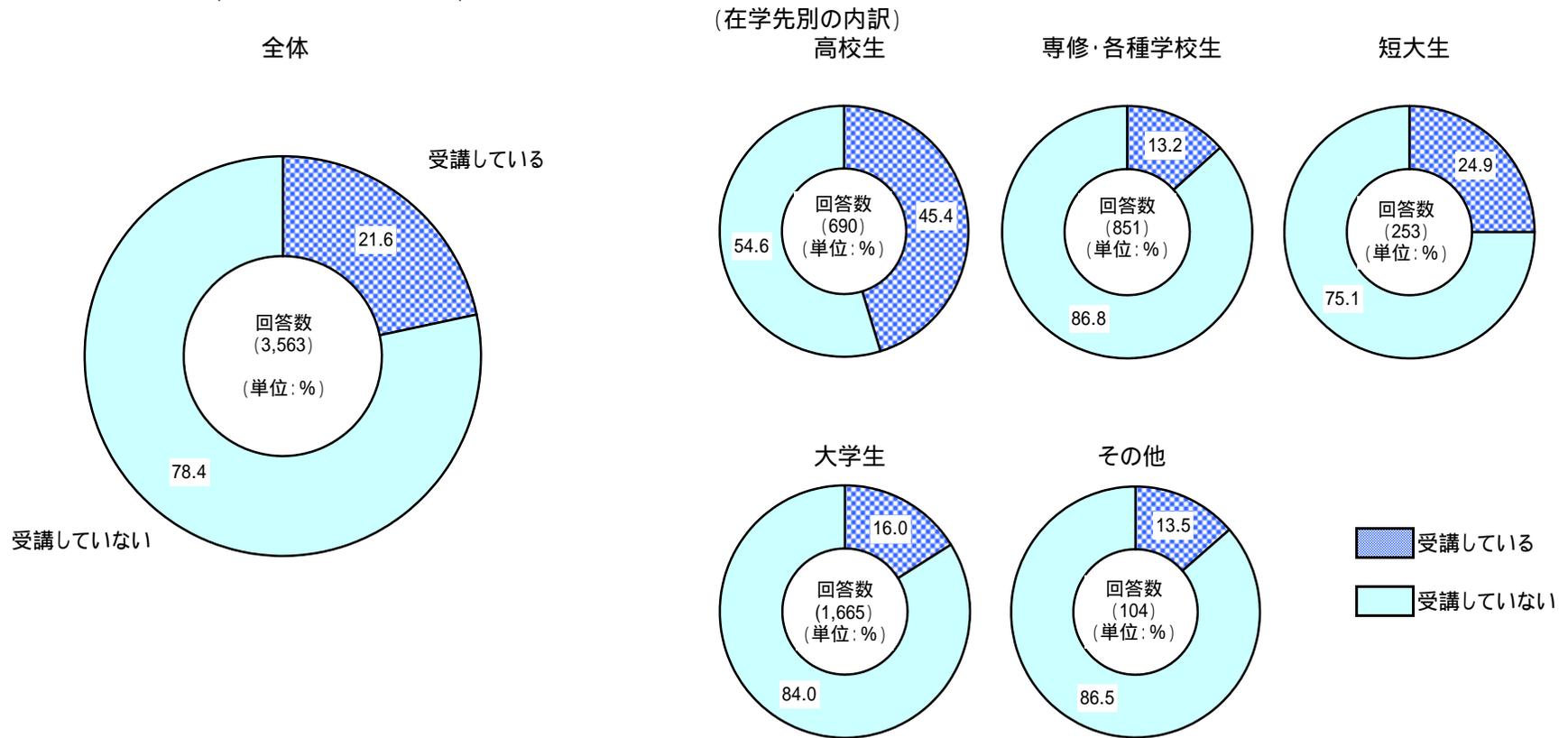
## 調査結果

### 1 学校外教育の受講状況

(1) 学校外教育の受講状況 - 学校外教育を受講している子どもの割合は22% -

学校外教育を受講している子どもの割合は21.6%となった(図 - 1)。在学先別にみると、高校生が45.4%ともっとも多く、短大生(24.9%)、大学生(16.0%)と続いている。

図 - 1 学校外教育の受講状況(平成15年度、入学先別)



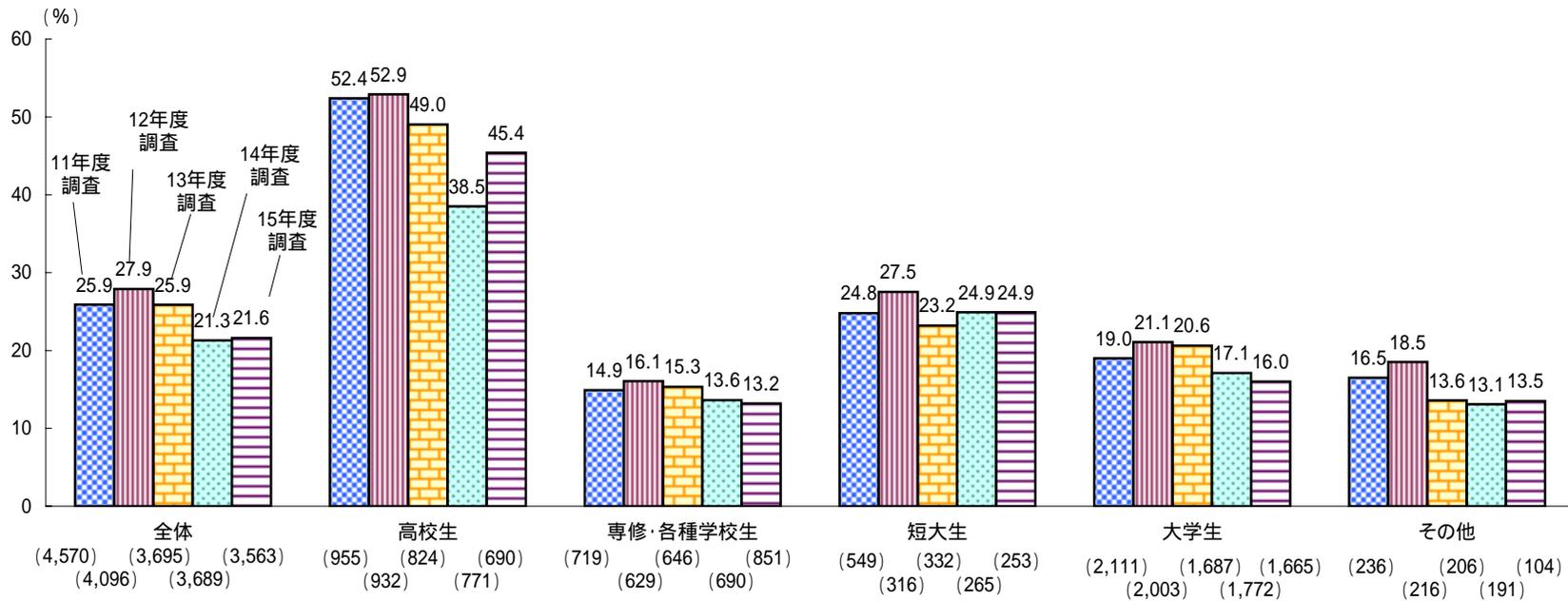
注:「その他」とは、大学院、海外の学校、予備校、その他の学校である。

(2) 学校外教育を受講している割合の推移 - 受講割合はわずかに増加 -

学校外教育を受講している子どもの割合は、前年度調査に比べて0.3ポイント増加した(図-2)。前年度を上回ったのは3年ぶりである。

在学先別でみると、高校生の受講割合が増加した。それ以外は、ほぼ前年並みとなった。

図-2 学校外教育を受講している割合



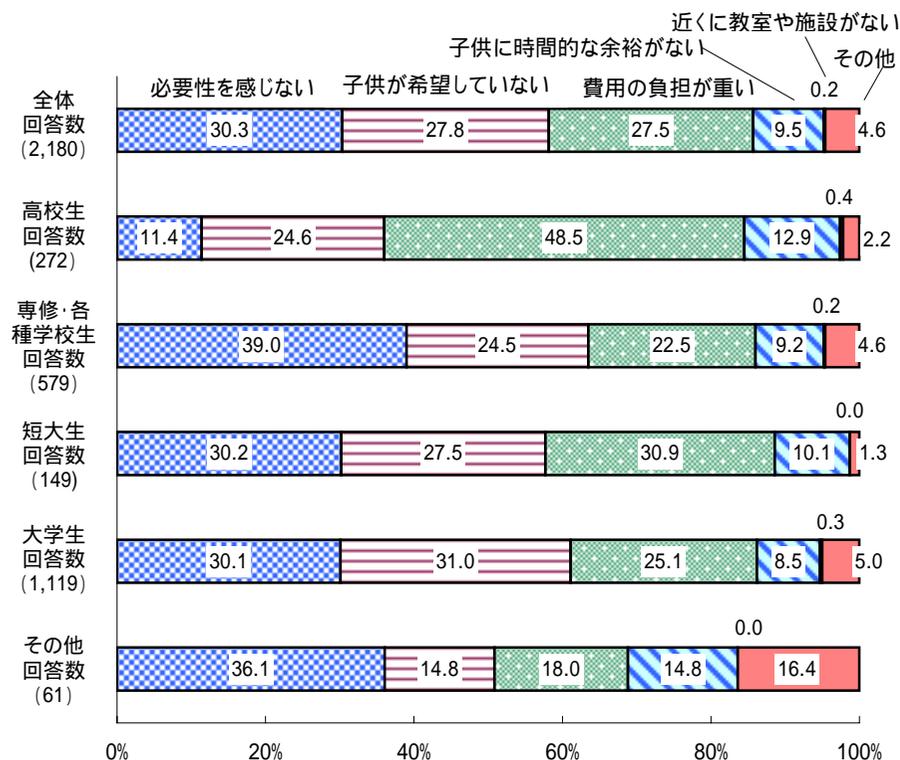
(3) 学校外教育を受講していない理由 - 「費用の負担が重い」が3割を占める -

学校外教育を受講していない子ども(回答者数全体の78.4%、図-1参照)についてその理由をみると、全体では「必要性を感じない」とする割合が30.3%と最も多く、以下「子供が希望していない」(27.8%)、「費用の負担が重い」(27.5%)と続いている(図-3)。

在学先別にみると、高校生では「費用の負担が重い」とする割合が48.5%と半数近くを占めている(図-3)。「必要性を感じない」とする割合は11.4%と、在学先別ではもっとも少なくなっている。

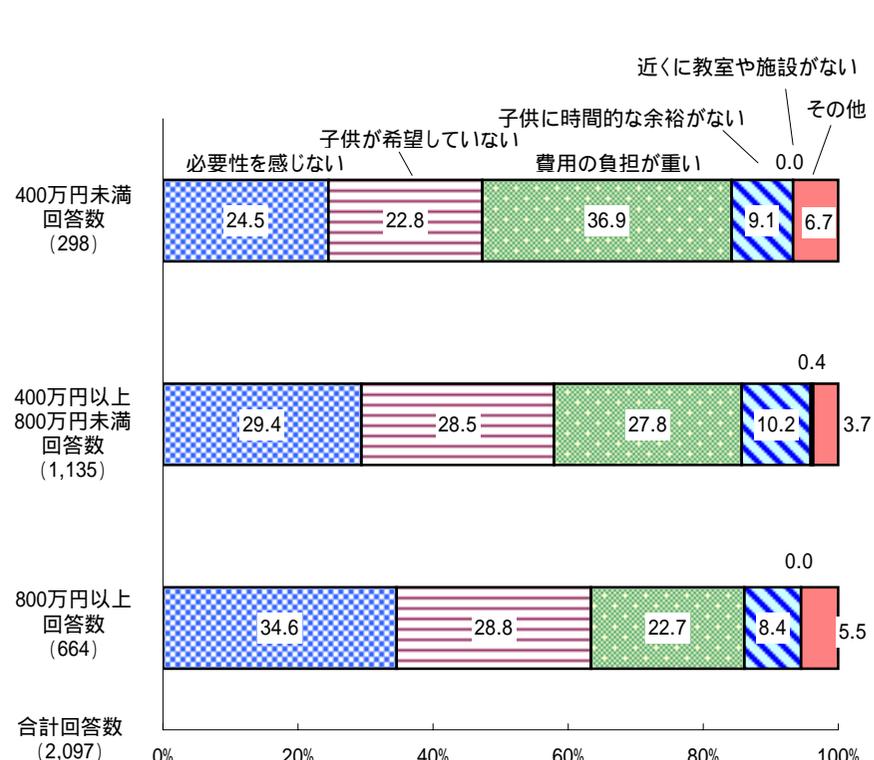
世帯の年収別にみると、年収が低いほど「費用の負担が重い」と回答した割合が高く、「年収400万円未満」では36.9%となっている(図-4)。

図-3 在学先別にみた学校外教育を受講していない理由



注1:集計対象である子どもが学校外教育を受けていない世帯を対象に集計した。  
 注2:「その他」とは、大学院、海外の学校、予備校、その他の学校である。

図-4 世帯の年収別にみた学校外教育を受講していない理由



注:図-3の注1と同じ。

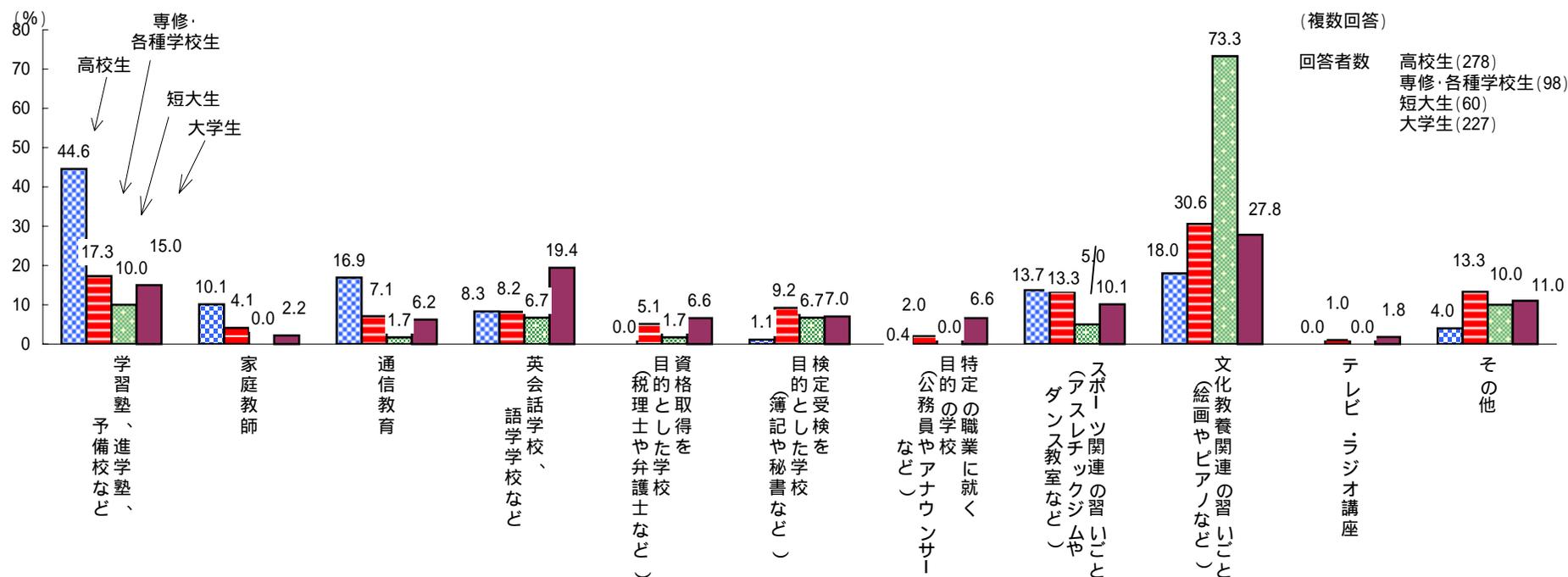
## 2 学校外教育の受講の実態

(1) 受講内容 - 「学習塾、進学塾、予備校など」が多い高校生、「英会話学校、語学学校など」が多い大学生 -

学校外教育を受講している子ども(回答者数全体の21.6%、図 - 1参照)についてみると、高校生では、「学習塾、進学塾、予備校など」が44.6%と高く、ついで「文化教養関連の習いごと」(18.0%)、「通信教育」(16.9%)となっている(図 - 5)。

大学生では実学志向が強く、高校生、専修・各種学校生、短大生に比べると、「英会話学校、語学学校など」(19.4%)、「検定受検を目的とした学校」(7.0%)、「資格取得を目的とした学校」(6.6%)、「特定の職業に就く目的の学校」(6.6%)とする割合が相対的に高い。

図 - 5 在学先別にみた学校外教育の受講内容



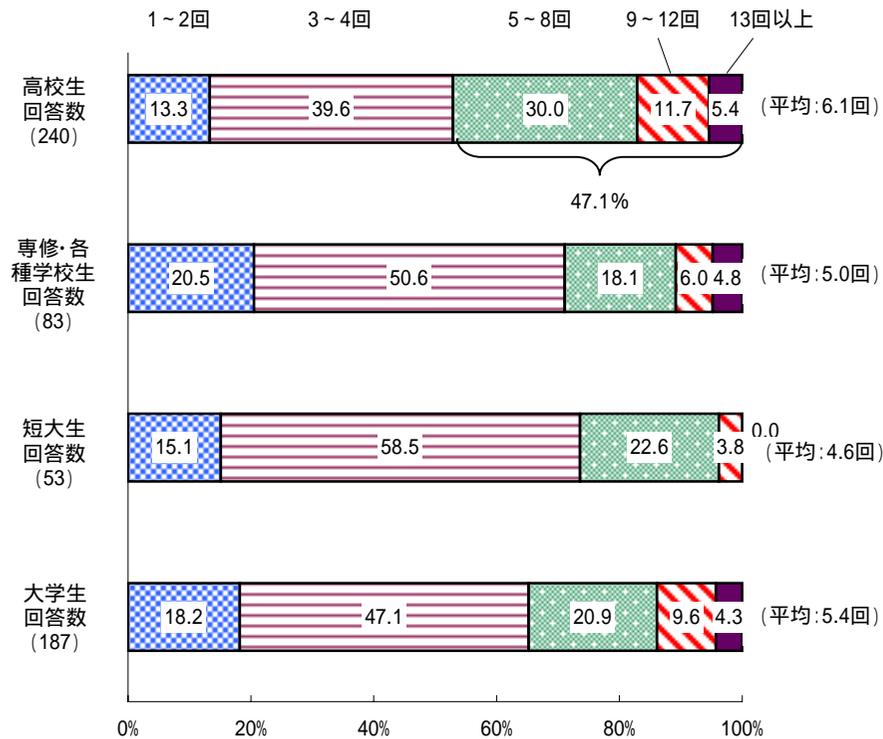
注: 学校外教育を受講している子どもについてみたものである。

(2) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(在学先別) - 高校生は5回以上が47.1%、10時間以上が43.1% -

学校外教育の1カ月当たりの受講回数は、高校生では5回以上受講している割合が47.1%である。一方、専修・各種学校生、短大生、大学生では4回以下の割合が60%を超えている(図 - 6)。

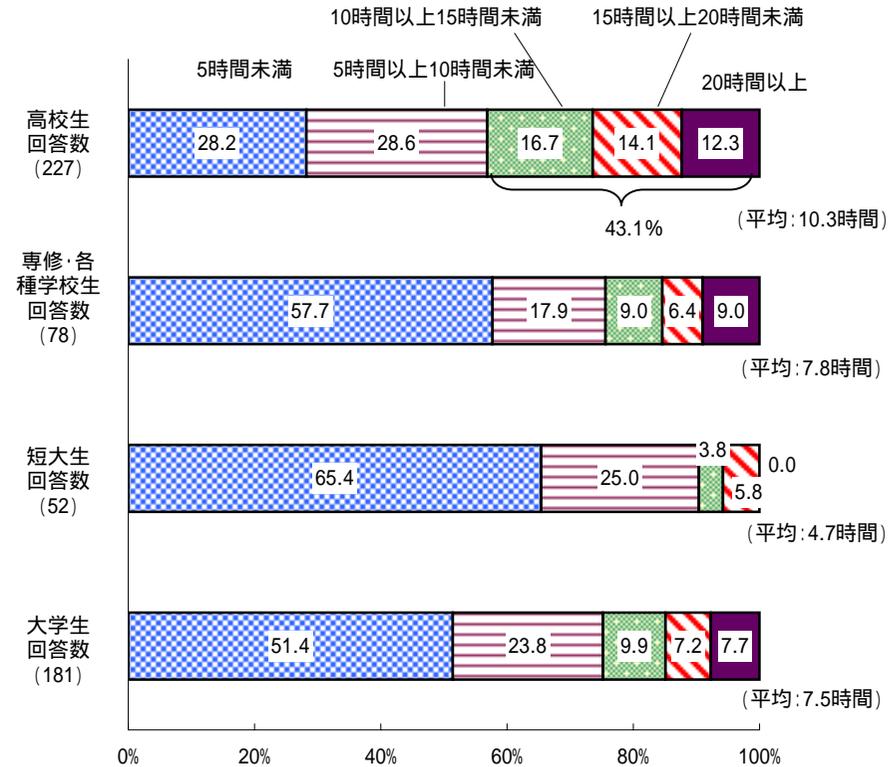
1カ月当たりの受講時間は、高校生では10時間以上受講している割合が43.1%である。専修・各種学校生、短大生、大学生では、5時間未満の割合が50%を超えている(図 - 7)。

図 - 6 学校外教育の受講回数(在学先別、子ども1人、1カ月当たり)



注: 図 - 5と同じ。

図 - 7 学校外教育の受講時間(在学先別、子ども1人、1カ月当たり)

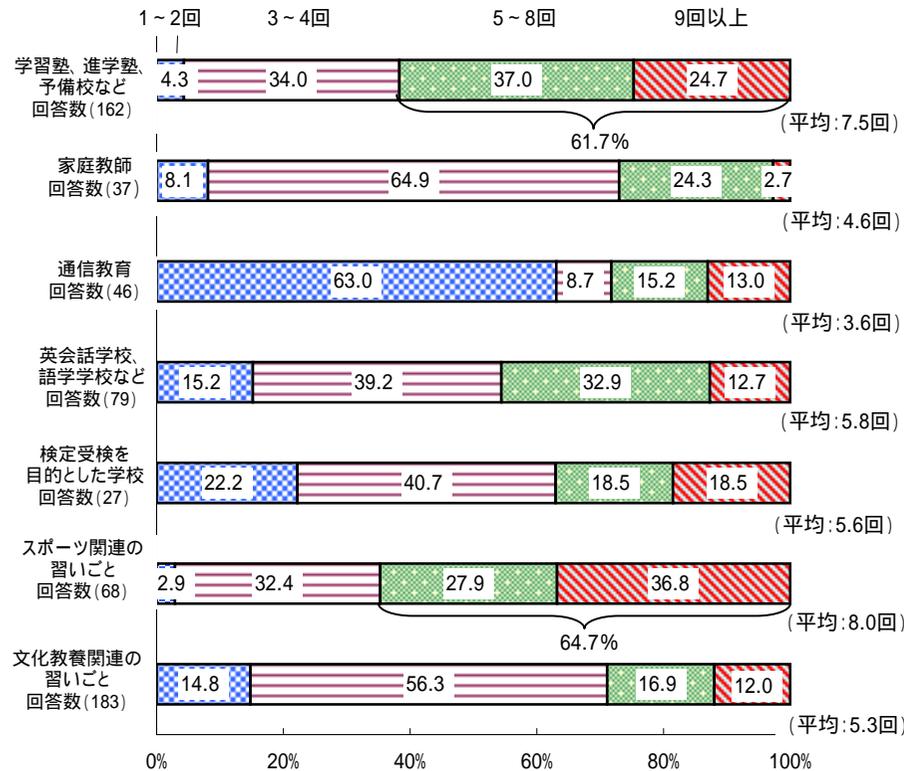


注: 図 - 5と同じ。

(3) 1カ月当たりの受講回数と受講時間(受講内容別) - 「学習塾、進学塾、予備校など」は平均7.5回、同13.0時間 -

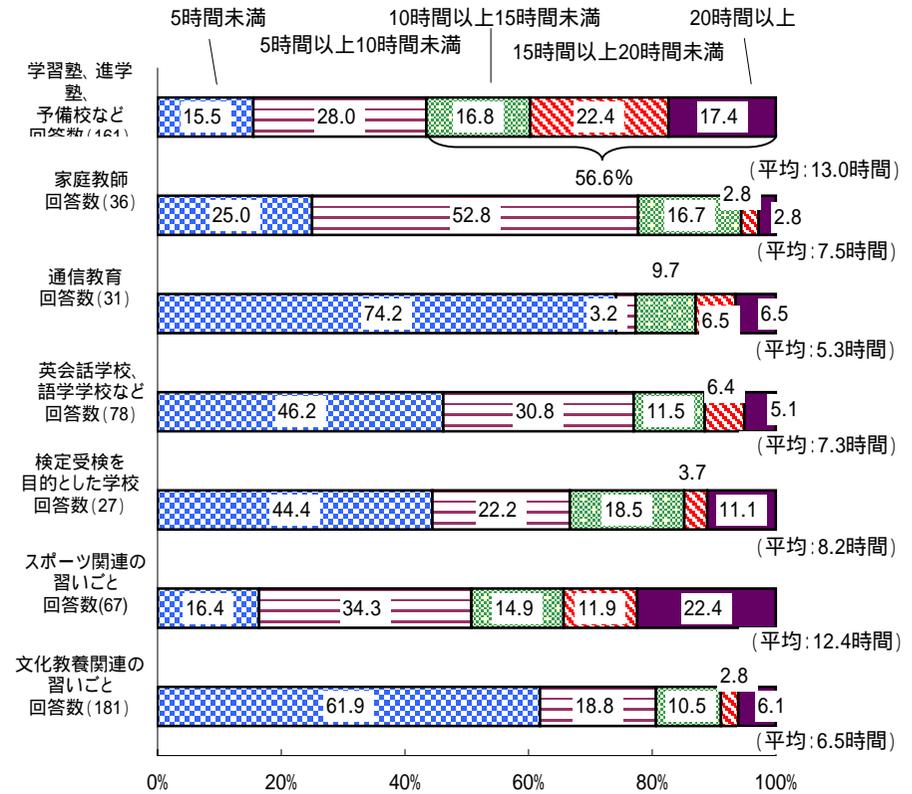
受講内容別に1カ月当たりの受講回数をみると、「学習塾、進学塾、予備校など」(平均7.5回)と「スポーツ関連の習いごと」(平均8.0回)では、5回以上受講している割合が60%を超えている(図 - 8)。  
 1カ月当たりの受講時間をみると、「学習塾、進学塾、予備校など」(平均13.0時間)では、10時間以上受講している割合が50%を超えている(図 - 9)。

図 - 8 学校外教育の受講回数(受講内容別、子ども1人、1カ月当たり)



注: 「資格取得を目的とした学校」「特定の職業に就く目的の学校」「テレビ・ラジオ講座」「その他」は、サンプル数が少ないため省略した。

図 - 9 学校外教育の受講時間(受講内容別、子ども1人、1カ月当たり)



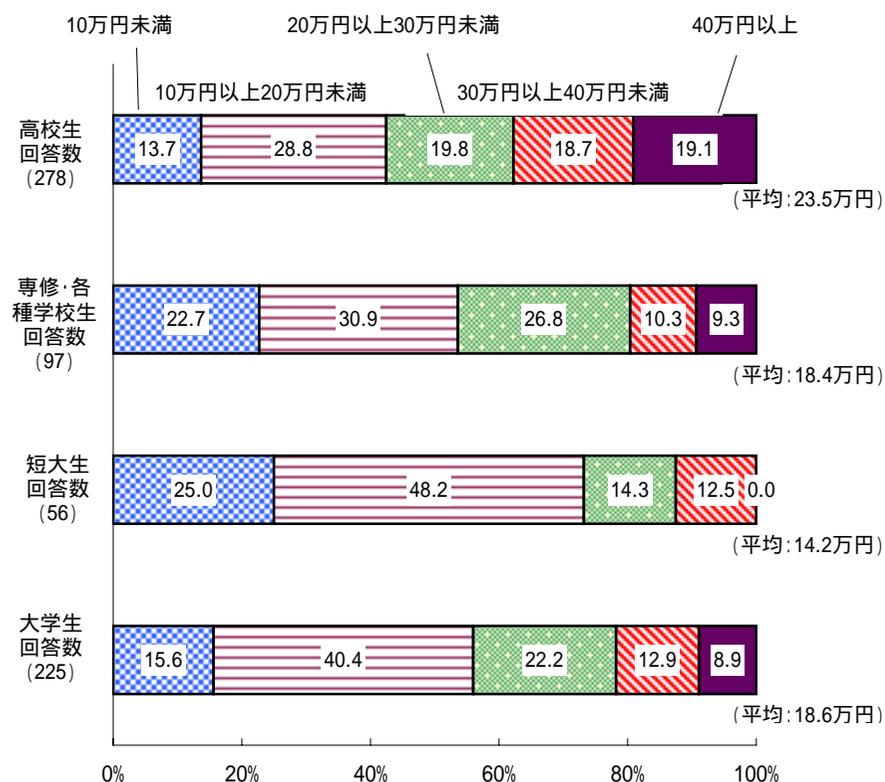
注: 図 - 8と同じ

### 3 受講費用の実態

(1) 受講費用 - 高校生は年間24万円、大学生は同19万円 -

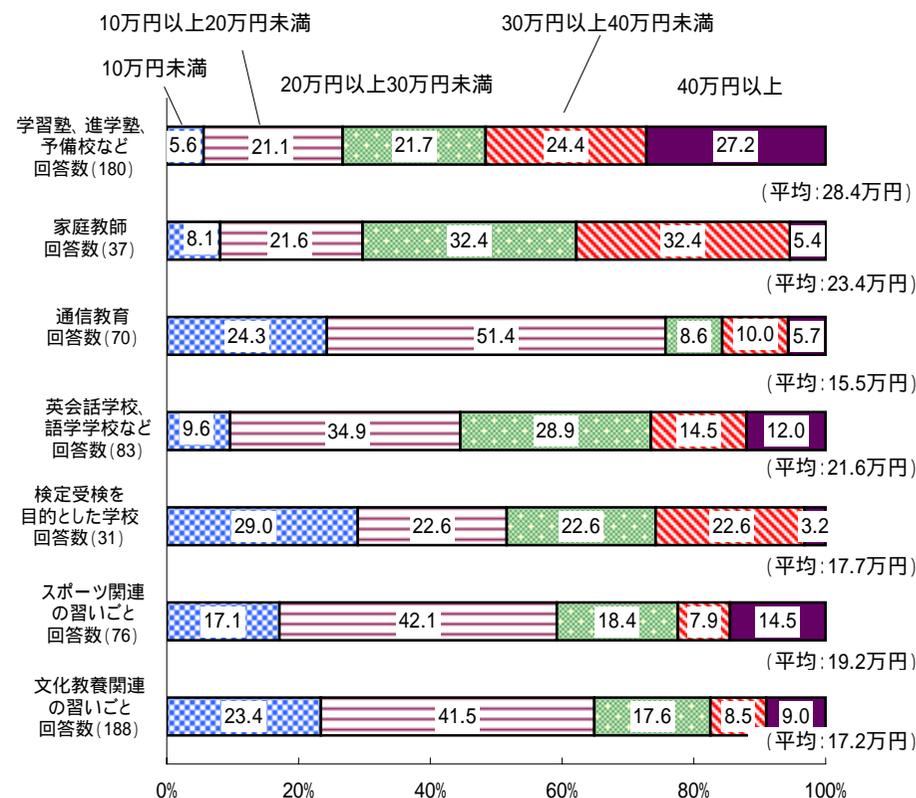
学校外教育にかかる年間費用は、高校生が平均23.5万円、大学生が同18.6万円となっている(図 - 10)。  
 受講内容別にみると、「学習塾、進学塾、予備校など」が平均28.4万円、「家庭教師」が同23.4万円、「英会話学校、語学学校など」が同21.6万円となり、費用の負担は重い(図 - 11)。とくに、「学習塾、進学塾、予備校など」では40万円以上の割合が27.2%となっている。

図 - 10 在学先別にみた学校外教育の受講費用(子ども1人、年間)



注: 図 - 5と同じ

図 - 11 受講内容別にみた学校外教育の受講費用(子ども1人、年間)



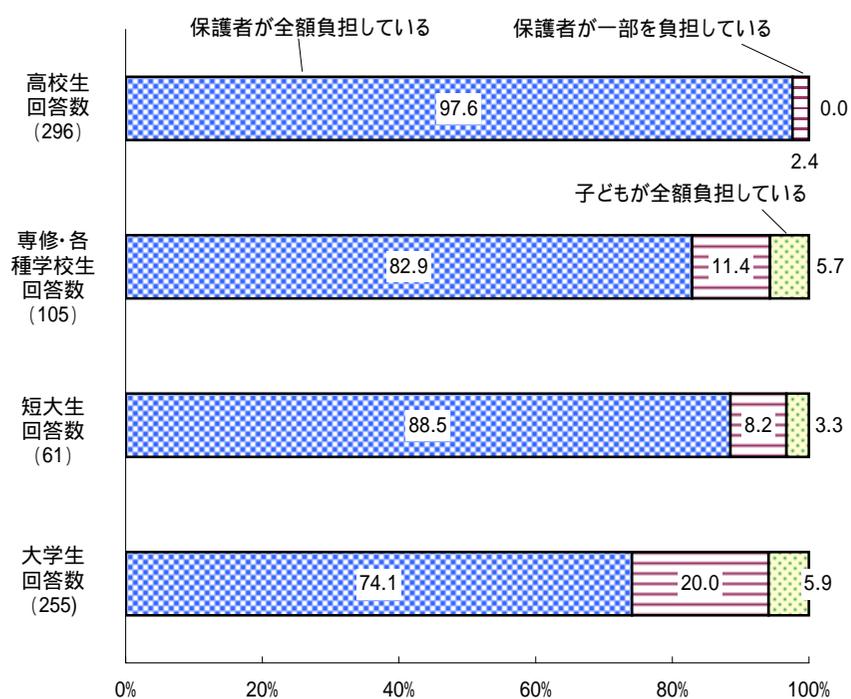
注: 図 - 8と同じ

(2) 受講費用の負担者 - 大部分を保護者が負担 -

学校外教育の受講費用は、ほとんどが保護者の負担となっており、「保護者が全額負担している」とする割合は、高校生で97.6%、大学生では74.1%となっている(図 - 12)。

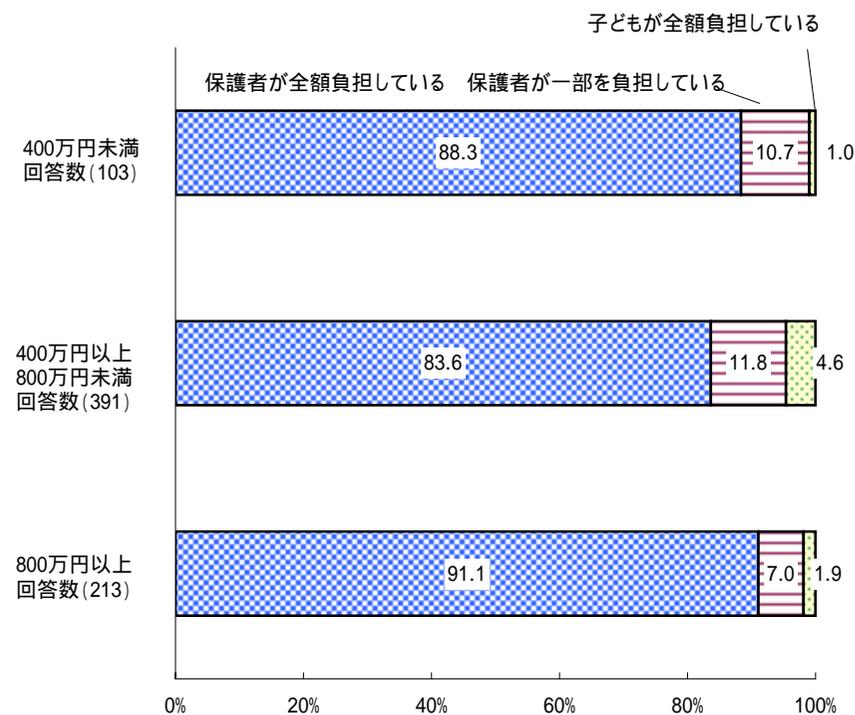
年収の額にかかわらず、「保護者が全額負担している」割合が8割を超えている(図 - 13)。

図 - 12 学校外教育の受講費用の負担者



注: 図 - 5と同じ。

図 - 13 世帯の年収別にみた学校外教育の受講費用の負担者



注: 図 - 5と同じ。

# 推薦入学にかかる教育費負担に関する実態調査結果

## 用語の解説

### 調査要領、回答世帯の概要

### 調査結果

- 1 推薦入学の実態  
推薦入学試験の形態
- 2 教育費の支出状況(推薦入学)
  - (1) 入学費用(私立大学)
  - (2) 入学費用
  - (3) 在学費用の年間見込額

## 用語の解説

### 1 推薦入学試験の形態

指定校推薦 ————— あらかじめ大学が指定した学校で校内の選考を経て志望者が学校推薦という形で出願する

自己推薦 ————— 指定校推薦のような出身校の枠がなく、所定の条件を満たす志望者がだれでも自由に出願できる  
(公募推薦やいわゆる一芸入試などを含む)

付属校・系列校などからの推薦 — 大学・短大の付属校・系列校などに在学し、所定の条件を満たす志望者が出願できる

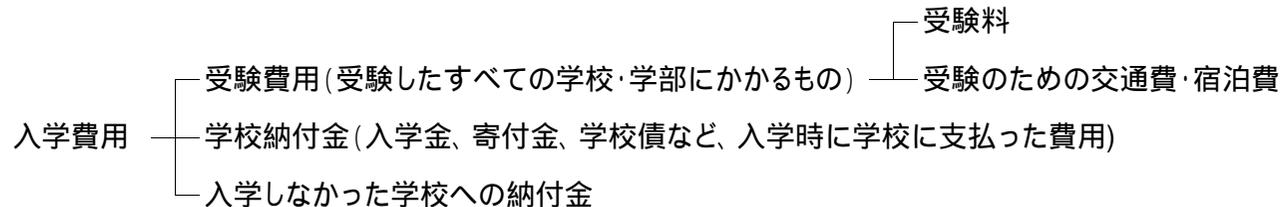
スポーツ分野での推薦 ————— スポーツ分野で所定の条件を満たす高い能力をもつ志望者が出願できる

アドミッションオフィス(AO)入試 ——— 書類審査と時間をかけた面接等を通し志望者が能力や意欲、目的意識などを総合的に判断され選抜される

注:「アドミッションオフィス(AO)入試」(以下、AO入試とする)は、一般には推薦入学試験に含まれないが、最近入学試験の形態の多様化のなかで急速に実施校が増えているため、一般入試と異なる形態として取り上げた。

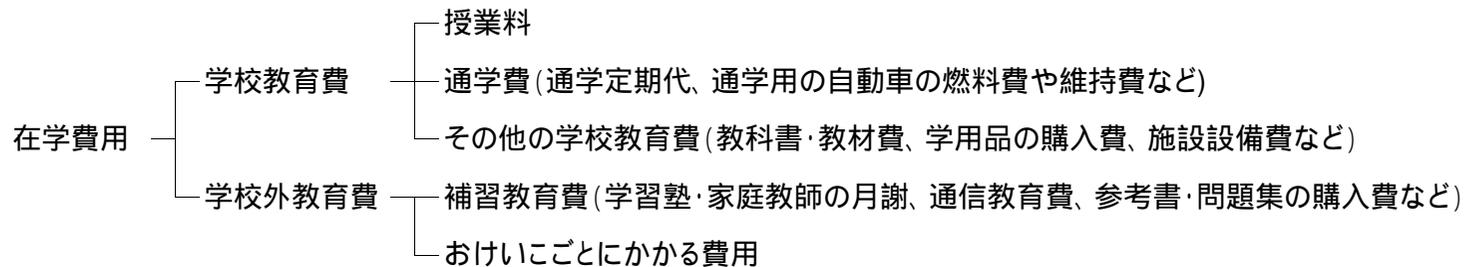
### 2 入学費用

平成15年4月に国内の短大または大学へ推薦入学するためにかかった費用



### 3 在学費用

平成15年4月から平成16年3月までの1年間に、推薦入学した子どもにかかる費用の見込み額



## 調査要領、回答世帯の概要

### 1 調査要領

調査対象：「国の教育ローン」を平成15年2月に利用した世帯のうち、  
短大または大学に推薦で子どもが入学した世帯  
実施時期：平成15年6月  
発送件数：11,999件  
回収数：3,707件（回収率30.9%）  
分析対象数：514件（短大または大学に推薦で子供が入学した世帯）

### 2 分析対象にした子どもの在学先（平成15年6月現在）（単位：％）

国公立短大	私立短大	国公立大学	私立大学 理系	私立大学 文系	私立大学 (その他)
2.0	19.9	10.3	11.3	37.8	18.7

注：「私立大学（その他）」とは、理系、文系、医科・歯科系以外の学部である。

### (参考) 回答世帯の概要

#### (1) 主たる家計維持者の職業（単位：％、以下同じ）

勤務者	個人事業主	法人経営者	その他
77.5	13.7	5.5	3.3

#### (2) 主たる家計維持者の年齢

44歳以下	45～49歳	50～54歳	55歳以上	平均
12.5	40.6	35.0	11.9	49.4歳

#### (3) 世帯の年収（平成14年）

200万円 未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円 以上	平均
1.4	11.1	23.3	29.8	34.4	669.5万円

注：調査対象世帯が「国の教育ローン」を利用した時点の所得上限額は990万円（事業所得者は770万円）である

## 「国の教育ローン」の概要

利用対象  
世帯の年収が990万円（事業所得者は770万円）以内（注）で、  
下記の学校に入学・在学する子どものいる世帯。  
・高校、高等専門学校  
・短大、大学、大学院  
・専修・各種学校、予備校など  
・海外の学校（高校、短大、大学など）  
・その他の教育施設（職業能力開発校など）  
（注）平成14年4月から所得上限額は1,210万円から990万円（事業所得者は990万円から770万円）へ引き下げられた。  
融資額  
学生・生徒1人当たり200万円以内  
用途  
・入学費用（学校納付金、受験費用など）  
・在学費用（授業料、アパートの家賃、通学費など）

## 調査結果

### 1 推薦入学の実態

推薦入学試験の形態 - 「指定校推薦」が4割を占める一方、「自己推薦」、「AO入試」など多様化がみられる -

推薦入学試験の形態をみると、「指定校推薦」(40.5%)がもっとも多く、以下、「自己推薦」(29.9%)、「付属校・系列校などからの推薦」(10.4%)、「AO入試」(9.4%)、「スポーツ分野での推薦」(5.6%)と続く(図 - 1)。

私立短大では、「指定校推薦」の占める割合が46.9%と半数近くを占めている(図 - 2)。

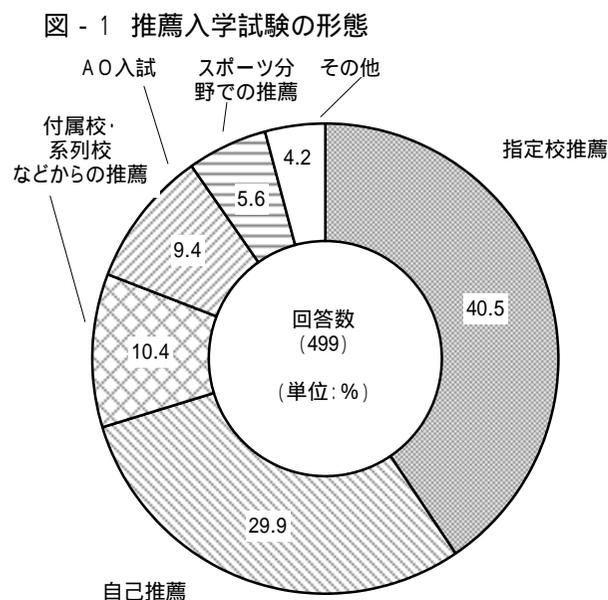
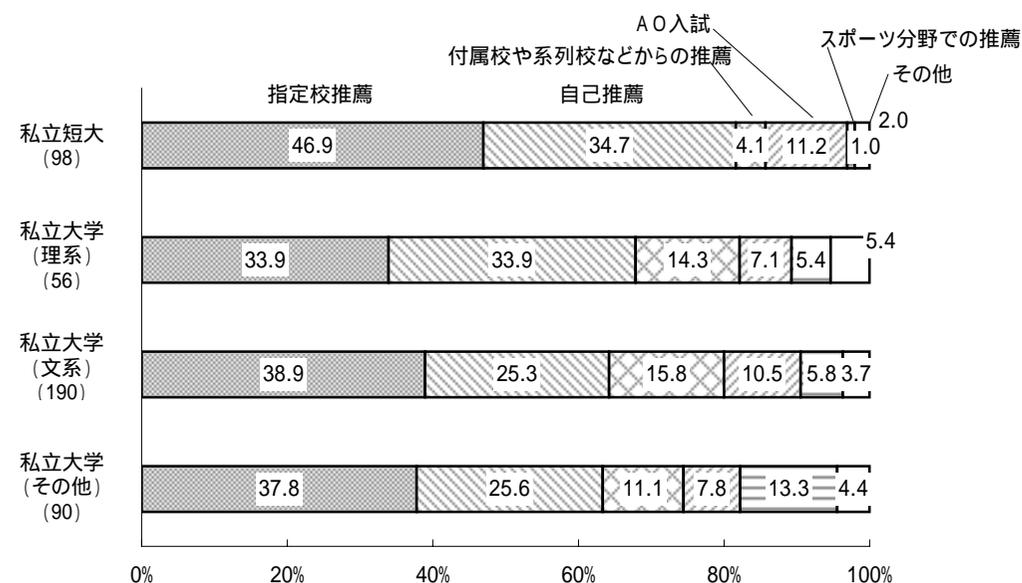


図 - 2 推薦入学試験の形態(在学先別)



注 1: 国公立短大、国公立大学については、サンプル数が少ないため省略した。

注 2: 私立大学(その他)とは、私立大学の理系、文系、医科・歯科系以外の学部である。

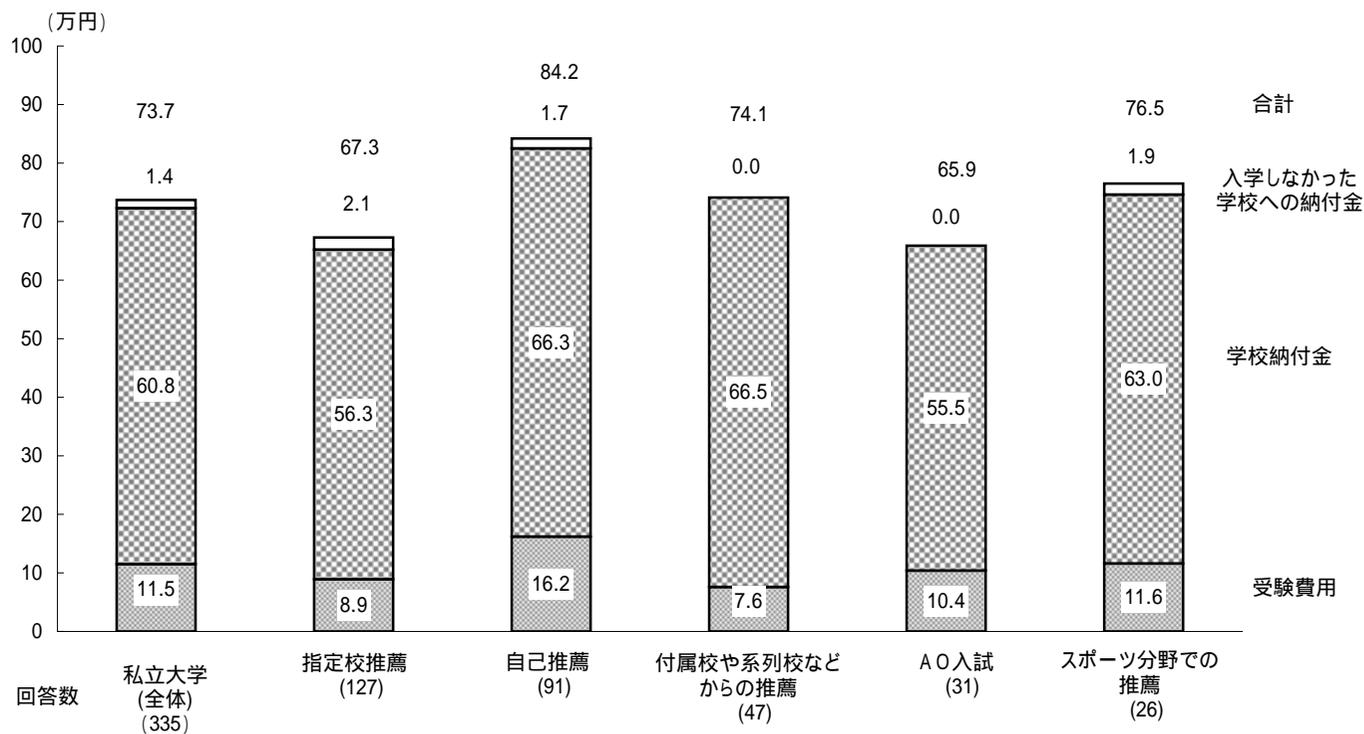
## 2 教育費の支出状況(推薦入学)

### (1) 入学費用(私立大学) - 入学試験の形態によって差がみられる -

私立大学の入学費用は、全体では73.7万円となった(図 - 3)。

入学試験の形態別にみると、「自己推薦」が84.2万円ともっとも高い。一方、「指定校推薦」は67.3万円、「AO入試」は65.9万円と少なく、入学試験の形態によって差がみられる。

図 - 3 入学試験の形態別にみた入学費用(私立大学、推薦入学)



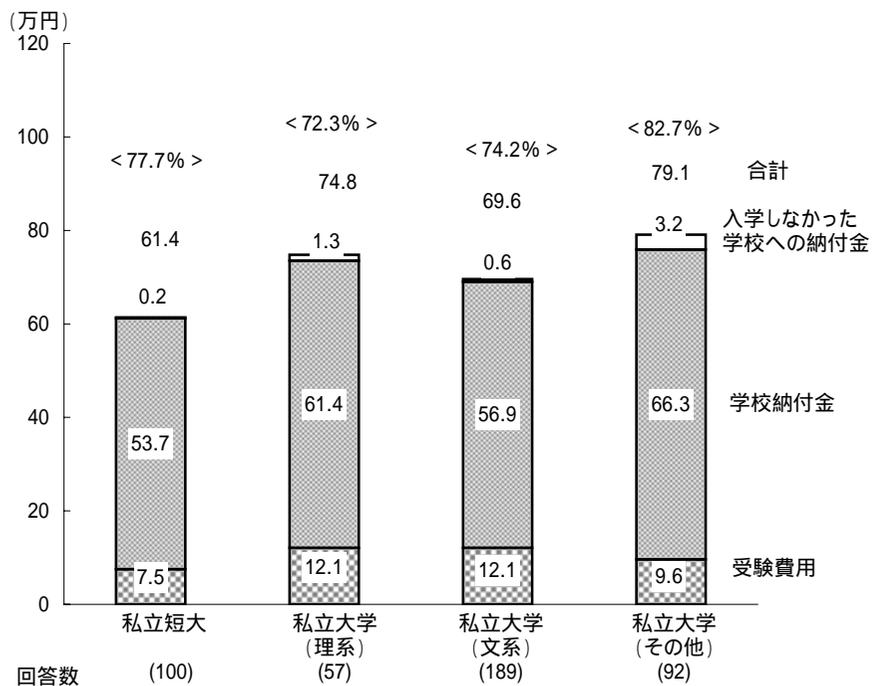
注:「その他」については、サンプル数が少ないため省略した。

(2) 入学費用 - 私立短大は61万円、私立大学では、理系は75万円、文系は70万円 -

入学費用を在学先別にみると、私立短大は61.4万円、私立大学は理系では74.8万円、文系では69.6万円となっている(図 - 4)。それぞれを一般入試の入学費用と比べると、2割強少なくなっている。

受験費用だけをみると、私立大学では、理系、文系ともに10万円台となっており、推薦入試の場合、受験費用の負担は少なくなっている(図 - 4、参考)。

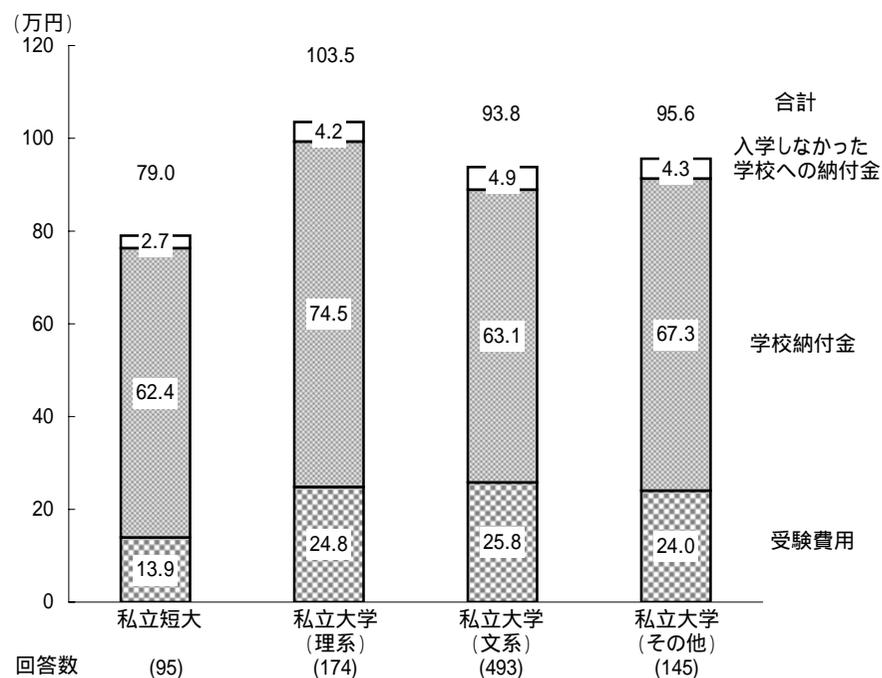
図 - 4 在学先別にみた入学費用(推薦入学)



注: 図 - 2と同じ

< > は、一般入試に対する割合である。

(参考) 在学先別にみた入学費用(一般入試)



注: 図 - 2と同じ

(3) 在学費用の年間見込額 - 私立短大は141万円、私立大学では、理系は159万円、文系は133万円

在学費用(見込額)を在学先別にみると、私立短大は140.7万円、私立大学は理系では159.2万円、文系では133.4万円となっている(図 - 5)。  
 在学先別にみた初年度費用は、私立短大は202.1万円、私立大学は理系では234万円、文系では203万円となっている(図 - 6)。

図 - 5 在学先別にみた在学費用(年間見込額、推薦入学)

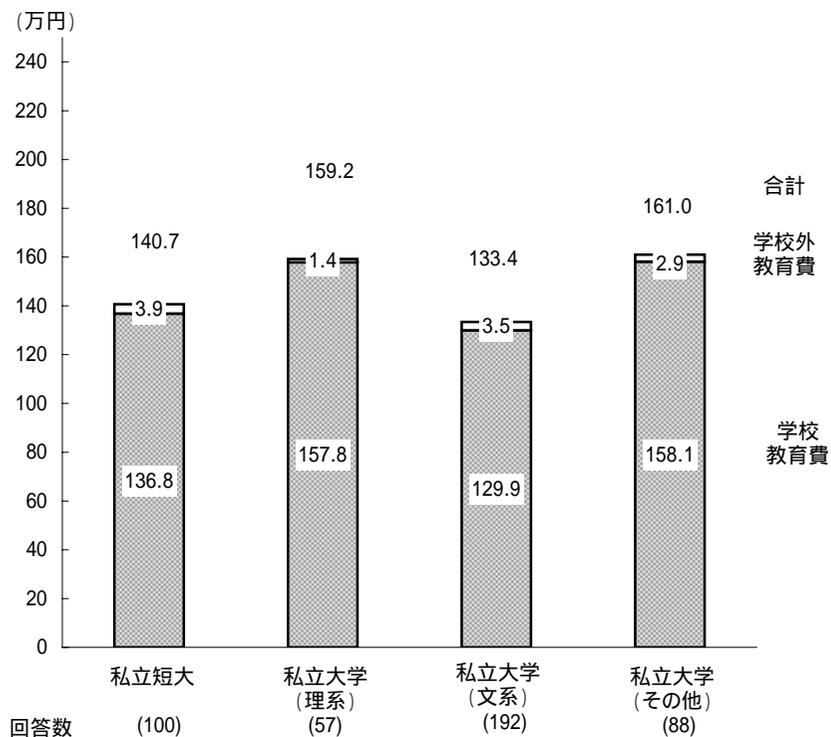
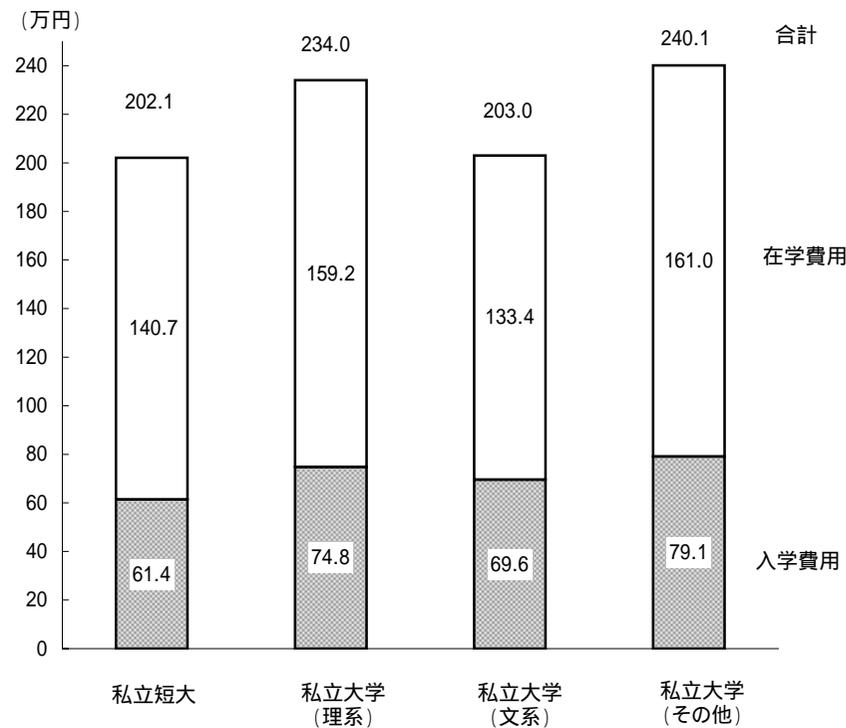


図 - 6 在学先別にみた初年度費用(推薦入学)



注: 図 - 2と同じ

注 1: 図 - 4と図 - 5を合算したものである。

2: 図 - 2と同じ